



会 議： 国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）海上安全分科委員会（SC 1）、同救命作業部会（WG 1）、その他の安全設備作業部会（WG 2）、防火作業部会（WG 3）フォートローダーデール会議

開催場所：米国フロリダ州フォートローダーデール Port Everglades Administrative Building

会議期間：2024年4月30日～5月3日

参加者：7カ国1団体25人

海技研からの出席者：宮崎 恵子 国際連携センター長

概要：

- ISO/TC 8/SC 1（以下、SC 1と略す）は、国際海事機関（IMO）へ、SC 1として統制された参加とするため、IMOの各会議への出席者登録・意見提出とSC 1への報告のガイダンスを作成することに合意し、決議として承認した。
- SC 1/WG 1（以下、WG 1と略す）は、救命設備に関する審議において、海上避難システムに関する2つの規格ISO 16706:2016及びISO 16707:2016の改訂案を審議した。



Port EvergladesにてTC 8/SC 1集合写真

主な貢献

宮崎は、SC 1議長として、日本を含む各国からの参加者の意見を調整し、審議を主導した。また、SC 1傘下のWGの内、WG 1に参加し、救命設備に関する規格改訂の審議等に貢献した。

主な審議結果

SC 1は初日と最終日、各WGは初日と二日目の午後及び三日目の終日に、並行して開催された。当所職員が参加した会議の主な審議結果は以下の通りである。他の会議及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。



1 SC 1における審議

宮崎は、SC 1 議長として、議長報告の議題及び国際海事機関（International Maritime Organization、以下 IMO という）報告の議題において、SC 1 として統制された IMO 参加の重要性を述べた。これに対して、日本代表団から、具体的な手順の提案がなされた。この提案に関する賛否意見はなかったが、SC 1 と IMO との関係に関する意見交換がなされた。最終日、SC 1 として統制された参加とするため、IMO の各会議への出席者登録・意見提出と SC 1 への報告のガイダンスを作成することが合意され、決議として承認された。

2 WG 1における審議

ISO 16706:2016（船舶及び海洋技術—海上避難システム—負荷計算及び試験）及び ISO 16707:2016（船舶及び海洋技術—海上避難システム—定員の決定）の改訂

本規格の海上避難システムは、本船から海上に退避せざるをえなくなった場合に、海上に展開された救命いかだに本船の暴露甲板から降下して乗り込むための装置で、いわゆるシューターとシューターが接続されているプラットフォーム（浮体）からなるシステムである。現在、海上避難システムは、シューターが直接救命いかだに設置される製品や、2つのシューターが併設されているジョイント型等が製造されている。これらに合致させるため、プロジェクトリーダー Aurelien Olivin 氏（フランス）が用意した用語と定義の追加や試験方法の修正が行われた文書を議論した。今次会合では、日本、デンマーク、英国、オーストラリアの海上避難システムメーカーからの参加者が揃ったため議論が深まり、規格改訂案として参加各国が合意できる文書を作成することができた。今後、プロジェクトリーダーがメンバー国にこの改訂案を回章する予定である。

3 次回の会議予定

次回の WG 1 は、上記 2 の規格の審議等を進めるため、今年 2024 年 9 月または 10 月頃にオンラインまたは対面で開催される予定である。次回の SC 1 会議は、2025 年 4 月 28 日から 5 月 2 日にコペンハーゲン（デンマーク）で開催される予定である。

以上